

課 題	新規 継続	継続	経常・特別別	経常	進 当	課 目	開 発 箇 所	期 間	昭和 61 年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額	
			目標との関連	ノ一ア					昭 和 70 年度			物 件 費	タフ苗木 調査用品	本 200	円	千円	役 務 費
目的	広葉樹用材林育成技術体系の確立 〔タフ高品質材生産試験〕		計画課			内之浦						人 件 費	(基 礎 時)	() 2,000	()	()	()
目的	タフ高品質材の生産を目的として、タフを主体とした広葉樹林分の更新 及び密度管理の技術の確立のための基礎調査を行う。																
全体計画	実施経過		当 年 度 分														
			実施計画		実施結果		評価および普及計画										
1. 試験地設定 2. 密度調整伐 3. 生長量調査(設定から 2年毎に調査) 4. 経過観察(必要に応じ 密度調整伐を行う) 5. 昭和70年度以降指標 林として昭和90年度まで 継続させる 6. 胸高直径60cm以上の 高品質材の生産を目標 とし、伐期は目標到達 年度(予想40年後)と する。	1. 試験地設定(昭和60年度) (1) 場竹 国見平国有林15林小班 (2) 面積 0.54 ha 2. 密度整理伐実施(昭和60年度)		タフ樹下植栽 面積 0.54 ha 本数 200 本		タフ樹下植栽 面積 0.54 ha 本数 200 本												

試験経過記録

区分指示

内之浦 営林署

(様式4) ~ /

課題

広葉樹用材林育成技術体系の確立 [夕フ高品質材生産試験]

1. 試験箇所林分状況 (昭和60年度)

(園地平園有林 1ヶ林小班)

林令	林種	樹種	混交率 (%)	平均胸高直径 (cm)	平均樹高 (m)	材積 (m ³)	本数 (本)
58	天然林	夕フ	88	32	13	131	265
		クス	7	34	14	10	16
		他L	5	18	8	8	70
		計	100	30	12	149	351

(注) 12cm以上のみ調査

2. 試験地設定 (昭和60年度)

3. 密度整理伐実施

保存木の概要 (整理伐後)

	立木		副木及び中立木		計	
	本	m ³	本	m ³	本	m ³
夕フ	77	52.74	24	11.41	101	64.15
クス	2	1.95	1	0.48	3	2.43
シイ	1	0.26	6	0.44	7	0.70
計	80	54.95	31	12.33	111	67.28

4. 立木・副木及び中立木の保存率 (昭和60年度)

本数比 32%

材積比 45%

試験経過記録

区分指示

内之浦 営林署

(様式4)~2

5. 密度調整伐実施後の集田空地にタブ苗木(根元径4mm上、苗長40cm上、実生2年生)200本を樹下植栽した。(昭和61年度)
面積0.54ha.
6. タブ苗木は、活着を良くするために植栽前に葉を削ぎ、更に苗長30~40cmを剪定したものを植栽し、今後の生長量調査を容易にするために苗木に白テープを巻きつけた。

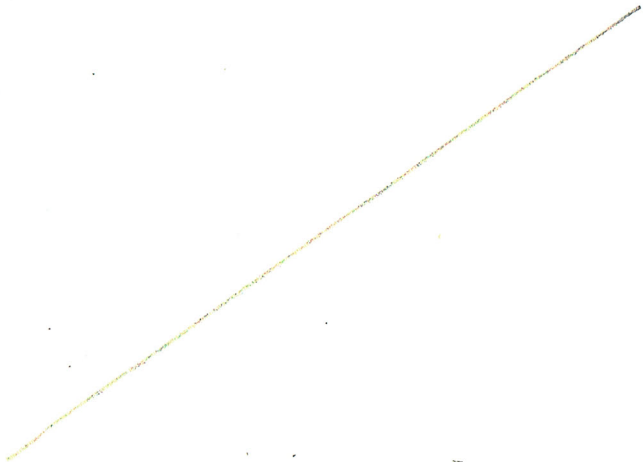
状 況 写 真

区分 指示

内之浦 営林署

(様式6)

No.1



園見平國有林 1区 林小班 試験地全景

No.2



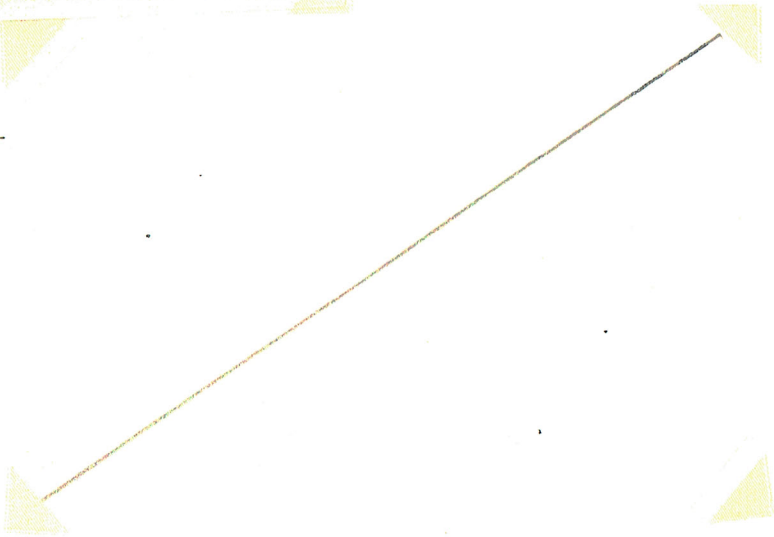
林相状況



No.3

夕J整理伐状況

No.4



試験経過記録

区分指示

内之浦 営林署

(様式4) ~ /

課題

広葉樹用材林育成技術体系の確立 [夕フ高品質材生産試験]

1. 試験箇所林分状況 (昭和60年度)

(園見平園有林 15林小班)

林令	林種	樹種	混交率 (%)	平均胸高直径 (cm)	平均樹高 (m)	材積 (m ³)	本数 (本)
58	天然林	夕フ	88	32	13	131	265
		クヌ	7	34	14	10	16
		他L	5	18	8	8	70
		計	100	30	12	149	351

(注) 12cm以上のみ調査

2. 試験地設定 (昭和60年度)

3. 密度整理伐実施

区分 樹種	立て木				副木及び中立木				計	
	平均胸高直径	樹高	本数	材積	平均胸高直径	樹高	本数	材積	本数	材積
夕フ	36 ^{cm}	14 ^m	77 ^本	52.22 ^{m³}	32 ^{cm}	13 ^m	24 ^本	11.41 ^{m³}	101 ^本	63.63 ^{m³}
クヌ	45	14	2	1.95	28	17	1	0.48	3	2.43
シイ	26	10	1	0.25	16	8	6	0.44	7	0.69
計			80	54.42			31	12.33	111	66.75

4. 立て木、副木及び中立木の保存率 (昭和60年度)

本数比 32%

材積比 45%

記載要領

- 調査結果及び考察を記入する
- 状況写真は別途整理する

調查日期		62. 3. 30															
番号	cm		生長量		生長量		生長量		生長量		生長量		生長量		生長量		
	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	根元径	樹高	
26	0.67	47.0															
27	0.52	31.0															
28	0.55	42.5															
29	0.78	45.5															
30	0.68	50.0															
31	0.58	42.0															
32	0.60	46.0															
33	0.61	55.0															
34	0.62	47.5															
35	0.75	49.0															
36	0.52	35.0															
37	0.65	26.5															
38	0.46	28.0															
39	0.56	37.0															
40	0.58	33.5															
41	0.86	57.0															
42	0.77	48.0															
43	0.70	54.0															
44	0.71	46.0															
45	0.45	32.5															
46	0.58	51.0															
47	0.60	43.0															
48	0.61	32.0															
49	0.52	46.0															
50	0.55	42.5															

5

10

15

20

25

様式 2

昭和62年度技術開発実施報告書

課題	広葉樹用材林育成技術体系の確立 (タブ高品質材生産試験)	継続・新規別	継続	担当 課	計画課	開発 箇所	内ヶ浦署	期間	昭和60年度 ~ 昭和70年度
		経常・特別別	経常						
		指示・自主別	指示						
全体計画		実施報告			昭和62年度実施計画		評価および普及計画		
		昭和61年度までの実施経過を記入のこと	昭和62年度実施結果を記入のこと						
1. 試験地設定 2. 密度調整伐 3. 生長量調査(設定から2年毎に調査する) 4. 経過観察(必要に応じ密度調整伐を行う) 5. バニタブ苗木を樹下植栽する(毎年生長量調査を行う) 6. 昭和70年度以降指標林として、昭和90年度まで継続させる。 7. 胸高直径60cm以上の高品質材の生産を目標とし、伐期は目標到達年度(予想40年後)とする。		1. 試験地設定(昭和60年度) (1) 場所 国見平国有林 15林小班 (2) 面積 0.54 ha 2. 密度伐実施(昭和60年度) 3. バニタブ樹下植栽(昭和61年度) (1) 面積 0.54 ha (2) 本数 200本	1. バニタブ樹下植栽 活着状況及び生長量調査 2. 生長量調査(上木) 3. 相対照度調査	1. 下刈(樹下植栽の分) 2. 生長量調査 ア上木及び樹下植栽の分 3. 経過観察					

試験経過記録

区分指示

内之浦 営林署

(様式4)〜1

課題

広葉樹用造林育成技術体系の確立(タフ高品質材生産試験)

(62年度)

1. ベニタブ樹下植栽 活着状況及び生長量調査について

昭和61年度(62年3月)に200本の樹下植栽したが、内50本を調査木として表示し調査した結果は表-1(1)(2)のとおりである。

(1) 調査木50本の内3本が野兎害により枯損しており、活着率は94%であった。

(2) 生長量の調査方法は、調査木の根際に地杭(プラスチック杭長さ30cm)を打ち込み、見出し杭(スチ 3.5×3.5×100cm)にはテンパーテープ(赤)1〜50を表示した。測定方法は根元径はノギスで、樹高は地杭から梢端部までをメジャーで測定した。

(3) 調査木50本の植栽直後(62.3.30)の平均根元径は0.83cm、平均樹高は43cmであり、62年11月18日時点の平均根元径は0.70cm、平均樹高は43cmである。

(4) 62年3月30日から62年11月18日の間にあける調査木50本当り総生長量は、根元径で3.78cm、樹高においては13.5cmと非常に僅少な生長量を示している。このことは、梢端部の枯損している植栽木が5本あり、その結果、上長生長が殆んどない結果となった。

2. 生長量調査(上木)について

(1) 試験地設定時の胸高径の測定は、山側一方差して輪尺を使用して測定したが、今回からは山側一方差しても定位置が不定であり、僅少の方向の違いでも数値に影響があるので、胸高径の測定は直径巻尺を使用し測定した。

(2) 樹高については、目測による樹高であるので、2年毎の調査では測定誤差(10%差)等考えると数値の信頼度が低いと低いと考えられるので調査を省略した。測定するとしても5〜10年毎程度が適当ではないかと考えられる。

従って、調査方法の変更に伴って生長量を掲示するに至らなかったが、調査結果は表-2のとおりである。

3. 相対照度調査について

試験地内を50点(樹下植栽調査木と同じ位置)測定した結果は表-3のとおりである。

照度は4〜76%で、平均で25%であった。

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は別途整理する